

香川県三豊市（国内 14 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要（令和 2 年 12 月 2 日実施）

令和 2 年 12 月 2 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、8 例目農場から約 120m、5 例目、6 例目及びその疫学関連農場がある場所から約 350m 離れた丘陵地の中腹に位置し、周囲は雑木林に囲まれている。
- ② 農場敷地の周囲に複数のため池があり、鶏舎から最も近いものまでの距離は約 300m であった。
- ③ 当該農場には開放鶏舎が 1 棟あり、採卵鶏がケージで飼養されていた。また、牛農場が隣接しており、農場敷地内への出入り口を共有していた。

2 通報までの経緯

- ① 1 例目、4 例目、5 例目及び 8 例目の発生に伴い実施した周辺農場検査において、陰性が確認されていた。
- ② 管理人によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、11 月以降 2~3 羽程度で推移していたが、12 月 1 日に隣接する 7 つのケージで 1 羽ずつ死亡が確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 管理人によると、12 月 1 日の死亡鶏は、5 列ある階段状 3 段ケージのうち、背中合わせになっている中央 3 列の真ん中の列の鶏舎入口側から 1/4 程度の位置で認められたとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では従業員 1 人が専属で管理を行っていた。毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏を回収していた。死亡鶏は、6 例目の農場にある焼却炉で週に 1 度処理していたが、県内での発生以降は、農場敷地内で処理していた。
- ② 当該従業員が休みの日には別の従業員が代わりに作業を行っていたが、2 例目発生以降は休まず、毎日同じ従業員が作業を行っていた。
- ③ 当該従業員が牛農場の管理をすることはなかった。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人によると、従業員は農場専用の作業着と長靴を使用していた。さらに、鶏舎内専用の靴と踏み込み消毒槽を設置していたが、鶏舎に入る際、手指消毒は実施しておらず、手袋も着用していなかった。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 飼養鶏への給与水は、水道水が使われておりパイプによって各鶏舎に供給されている。
- ④ 鶏舎は高床式で、鶏糞は床下に落下する仕組みであり、床下への出入り口は扉で塞がれていた。
- ⑤ 管理人によると、オールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。
- ⑥ 管理人によると、鶏舎周辺部には消石灰を散布し、消毒を行っていたとのこと。
- ⑦ 車両が当該農場に出入りする際、農場の入口に設置されたプール型車両消毒槽を通る。管理人によると、2 週間程度前から、動力噴霧器による消毒も実施していたとのこと。

- ⑧ 発生鶏舎の側面は金網（マス目は約2×2cm）とその外側に、ロールカーテンが設置されている。管理人によると、発生時、ロールカーテンは、日中は半分程度開放しており、夜間は閉めていたとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 鶏舎の側面の金網には複数箇所破損がみられた。また、鶏舎の天井や壁面にも隙間がそれぞれ確認された箇所があり、小型の野生動物が侵入可能と考えられた。
- ② 管理人によると、鶏舎内でネズミを見かけることがあり、定期的にネズミ対策（殺鼠剤の設置）を行っているとのこと。現地調査時にも、鶏舎内でネズミが複数確認された。
- ③ 管理人によると、鶏舎内でスズメを見かけることがあり、農場内にはカラスも飛来しているとのこと。